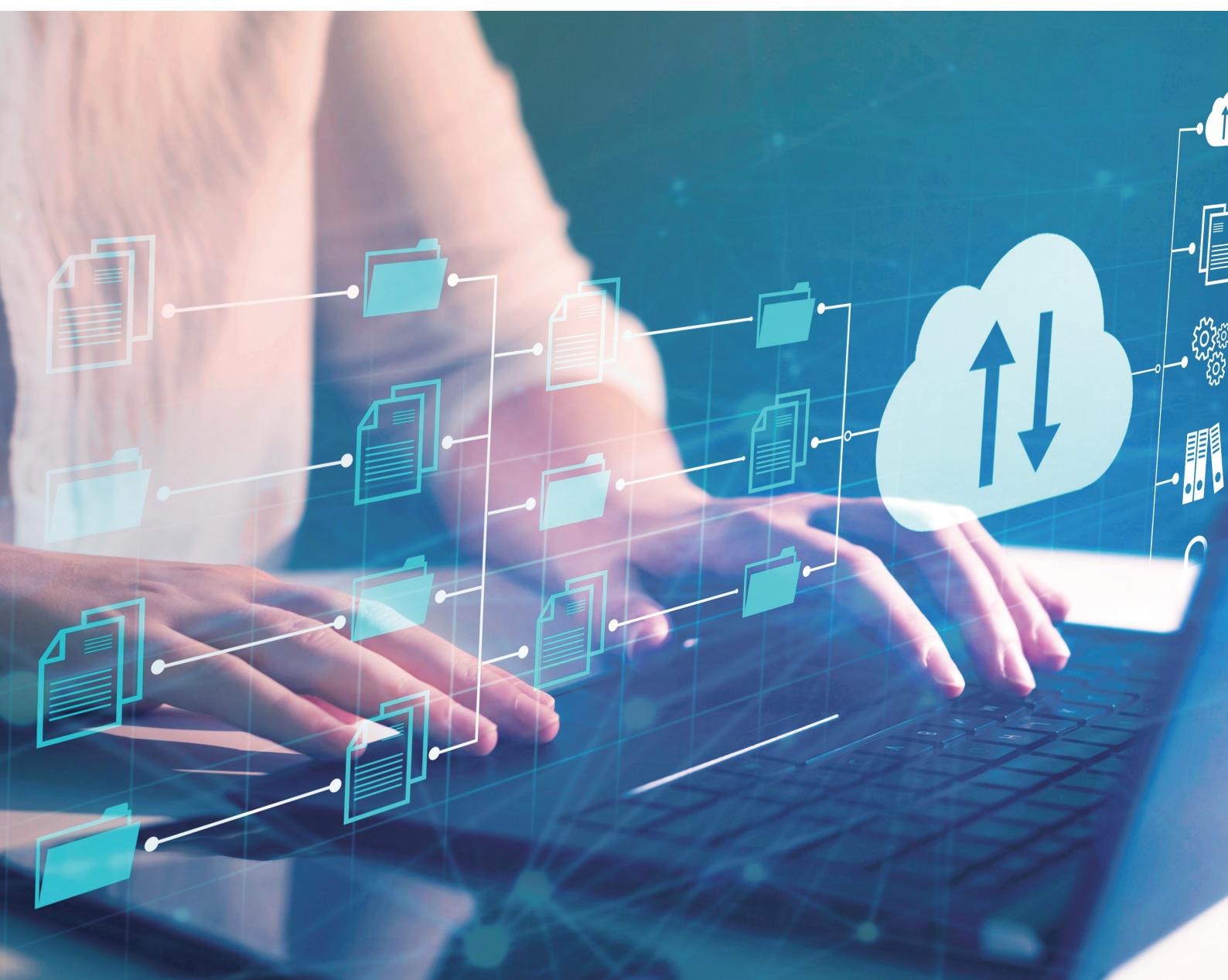




わかる! Box Relay

すぐにできる・自分でできる
業務プロセスの自動化



ハイブリッドワークに必須の「平易な」ワークフロー

コロナ禍で露呈したアナログなペーパーワークやその回覧が、働き方改革やDX推進の足かせとなっています。誰でもすぐに使えるワークフローシステムを導入することで、ペーパーワークや回覧の電子化と効率化を図ることができます。結果、どこにいても仕事ができハイブリッドワークを加速して、ビジネススピードや生産性を上げることに貢献します。

業務プロセス効率化が急務

日本の労働生産性は国際的に見ても低迷していると(*1)言われていますが、業務プロセスを見直して改善することは古くて新しい取り組みです。ここで重要なのが、業務に必須なコンテンツの管理とワークフローです。日々の業務においては、複数の関係者に様々なタスクを依頼し、資料を共有しながら進行して、要所で議論したり意思決定をします。つまり、プロセスの区切りが次のプロセスの起点となり、一連の業務フローが完了するのです。誰が・何を・誰に・どの順番で依頼し何を処理するか。複数の関係者間で作業を行い、責任者につなげて承認を得る。完了に至るまでの流れを規定し自動化することで、業務フローが効率的かつ確実に実行されます。

(*1) 日本の1人当たり労働生産性は、81,510ドル。OECD加盟国38カ国中29位という。
参照:2022年12月 公益財団法人日本生産性本部「労働生産性の国際比較2022」
https://www.jpc-net.jp/research/assets/pdf/report_2022.pdf

ワークフローシステムを導入するメリット

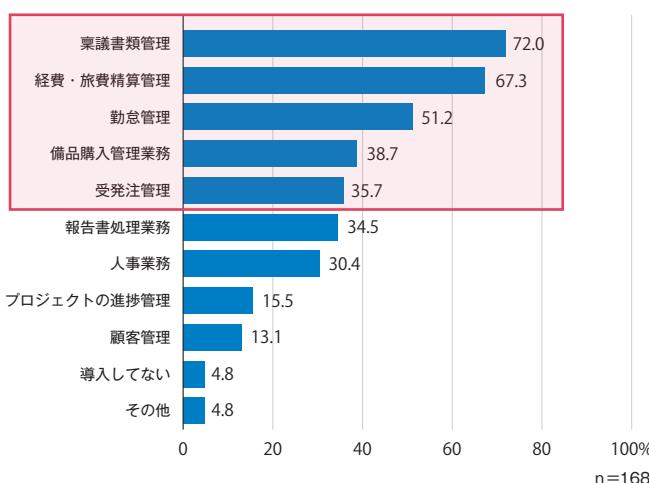
1. 意思決定スピードの迅速化
2. 書類作成・承認作業の負担軽減
3. ペーパーレスの促進
4. 業務処理のコストと時間を短縮
5. 内部統制の強化

課題1 特定業務に限定したワークフロー

最近の調査結果より(*2)ワークフローの用途を見ると、個々に解決を図れば済むのではなく、全体最適のために視点を変えたアプローチが必要なことがわかります。つまり、ワークフローにおいて申請・稟議・承認・決済という限定されたプロセスのみを対象にしている現状、これこそが問題なのです。

業務プロセスの最適化があらゆる業務で必要なことは言うまでもありません。広い業務領域に渡りプロセスを連携させ、アドホックにセルフサービスで利用できることが重要です。

そのためにも、業務に必ず存在するコンテンツに紐付いたワークフローを利用し、あらゆる業務の効率化を図ります。



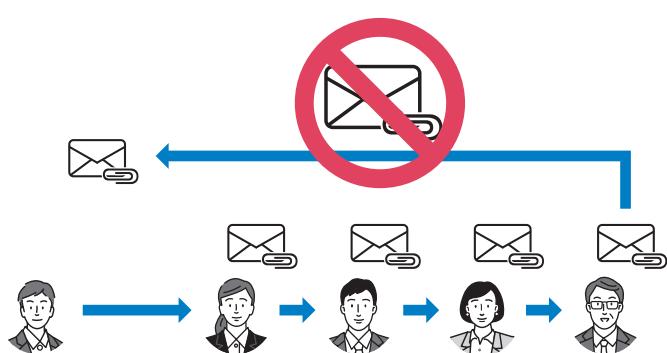
課題2 メール添付に潜む罠

ワークフローシステム未導入の場合、往々にしてメールにファイルを添付してのやり取りが発生します。メール添付によってペーパーレスには貢献するものの、別の課題が発生してしまいます。

- ファイルの分散(複製、亜種の増加)による効率低下
- ストレージ容量不足(サーバー、ユーザーPC)
- PPAP問題に代表される効率とセキュリティ低下
- ランサムウェア被害や情報漏えいリスク増大

生産性やセキュリティを犠牲にしてしまうファイルのメール添付は、PPAPと揶揄され政府も含め脱PPAPが推進されています。

しかしながら、コンテンツ起点のワークフローを活用することで、メール依存からも脱却できるのです。



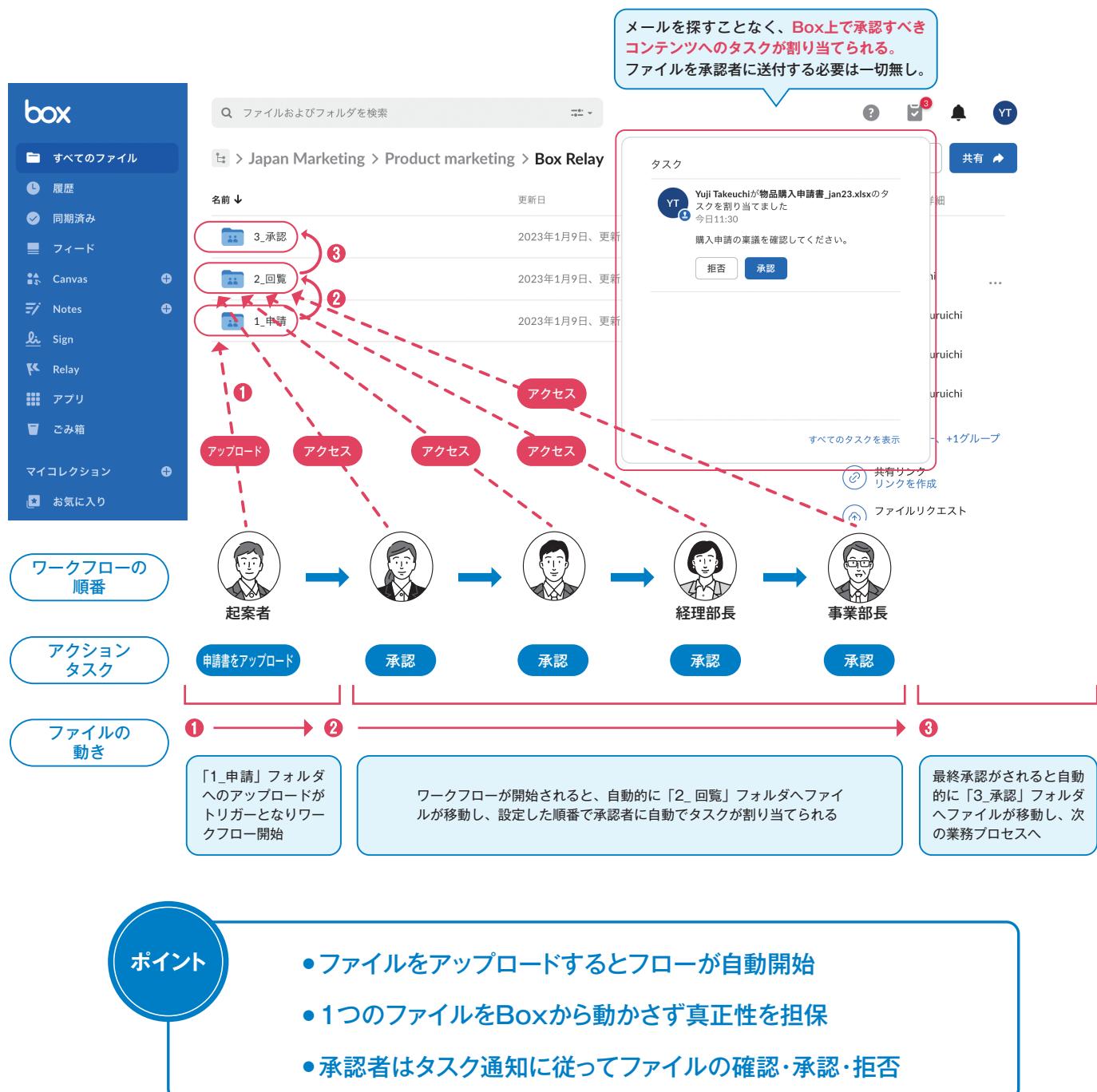
(*2) 2022年8月 キーマンズネット「ワークフローソールの導入状況」
<https://kn.itmedia.co.jp/kn/articles/2209/15/news144.html>

広く業務プロセスをつなぎ、シンプルに自動化

Box Relay を使い業務に必須なコンテンツの回覧やレビューを効率化すれば、業務全体の生産性が驚くほど向上します。Box Relay のワークフローはトリガー（ワークフローを開始するイベント）とアクション（イベントに対して何を実行するか）から構成され、どれに対して何を実行するかを組み合わせて定義するため、幅広い業務に対応できます。また、IT の知識がなくても誰もが設定できる GUI による平易な設定以外にも、代表的な業務ごとにワークフローテンプレートが用意されています。

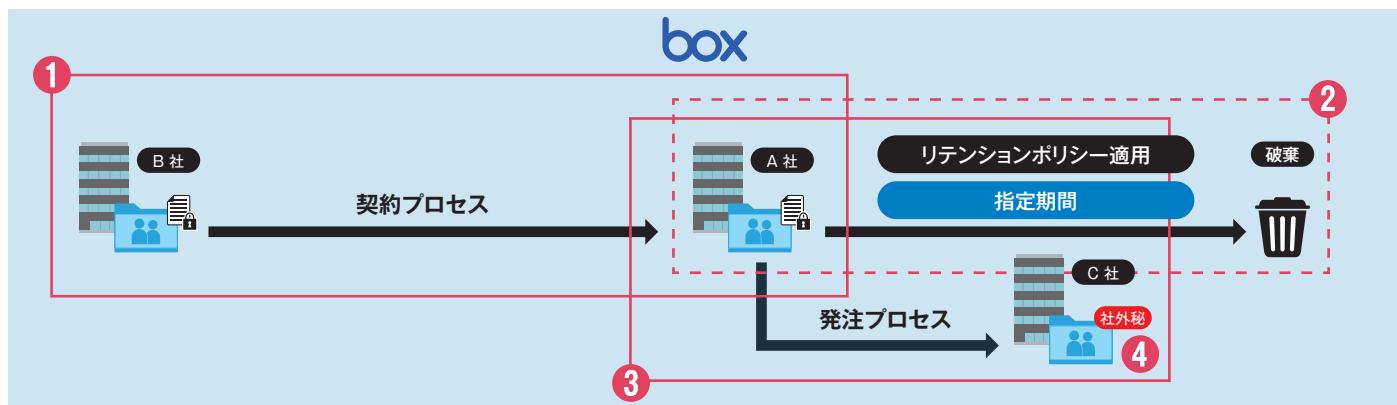
活用例

物品購入申請フロー



コンテンツ管理基盤だからできる、よりセキュアにより効率よく

Boxは社内の各部署や社外の業務関係者と、セキュアかつ柔軟にコンテンツを共有する基盤です。コンテンツ管理基盤の上でワークフローを回すことで自動化できる範囲が広がり、業務の最適化や効率化、情報ガバナンスの強化ができます。また、働く場所、アプリやデバイスを問わず、少ない人手で生産性を上げることができます。



ワークフローをシンプルに、セルフサービスで実行

Box Relayは開発が必要な重厚長大なワークフローではありません。必要な時に自ら設定し実行することができます。また、組織や権限に統合されたワークフローでもないため、人事異動があっても運用に影響することなく、トリガーとアクションを組み合わせることで柔軟な利用が可能です。直感的に迷わずワークフローを回すことで、スピードと機動性の高い業務効率化を図り生産性を高めます。

まとめ

日々の業務においてコンテンツは欠かせません。コンテンツは業務の成果物であり、回覧や承認が必要です。従来のアプリケーション軸で回すワークフローに加え、コンテンツ軸で回すワークフローが業務生産性を飛躍的に向上させます。業務に携わる誰もが「すぐにできる・自分でできる」Box Relayは、業務プロセスを整理して自動化や効率化を進めます。ハイブリッドワークの今、いつでも・どこでも・迷わず業務に必須のコンテンツを回覧して承認を得られるBox Relayの活用が、ビジネス成果を最大化します。

**Boxとクラウドコンテンツ管理の情報サイト
Box Square**

企業・組織のコンテンツやコラボレーションに関する課題を解決する総合ポータルサイトです。働き方改革、生産性向上、DX、デジタルワークプレイス、セキュリティなどをテーマに、ブログ、お客様事例やインタビュー、各種レポートなど最新情報を届けします。

<https://www.boxsquare.jp/>

株式会社 Box Japan
〒100-0005
東京都千代田区丸の内1-8-2 鉄鋼ビルディング15階
<https://www.boxsquare.jp/>
Box導入に関するお問い合わせ
<https://www.boxsquare.jp/inquiry>
Box製品ご購入後のサポートに関するお問い合わせには返信できませんので、予めご了承ください。

販売代理店